愛媛大学医学部第二内科

同窓会ニュース

平成 29 年 12 月 No.45

巻頭言

愛媛県立中央病院の現況

愛媛県立中央病院

循環器病センター長 岡山英樹

同窓会の皆様、ご無沙汰しております。早いもので、2010 年 4 月に県立中央病院に 赴任してからもう8 年目になりました。体力には自信がある方ですが、情け容赦のない 3 次救急当直・待機に毎月 10 日以上も拘束され、年間 400 人近い入院患者をレジデン トと初期研修医の屋根瓦式のチームで担当し、年々身体がきつくなってきています。ま た多忙な臨床の合間を縫って学会等に参加して知識を常にアップデートし、呼んで頂け れば各地のライブや講演会に出かけ愛媛県中の宣伝もしなくてはなりません。寿命を確 実に縮めていると思います。ライフ・ワークバランスの重要性をわかってはいても、そ こまで余裕があるほどスタッフも多くはなく「それは無理」としか言いようがありませ ん。愚痴はこれくらいにして、これまでに印象に残ったイベントを幾つか紹介したいと 思います。

最も大きなイベントは新病院の完成と移転です。外からは 2013 年 5 月 4 日、なにげに新病院が稼働開始したように見えたと思いますが、県中の職員一同とてつもない労力を払い、様々な難題に知恵を絞り、救急機能を保ちつつの移転に神経をすり減らしました。旧病院を取り壊し今の形になってのグランドオープンは翌年 12 月でした。移転と同時に NEC→富士通へと電子カルテも変更したため、スタッフの負担は倍増し、電子カルテ、患者搬送、救急などのリハーサルを何度何度も繰り返しました。

循内としては、細かな設計の詰めや、電子カルテとリンクした CAG や心エコーの動画 サーバーの導入に腐心しました。移転後数年かかって日々の臨床の中で創意工夫がなされ、様々なワークフローが使いやすい方向へ収束し、有機的に稼働するようになりました。

2015 年 12 月に重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI: タビ)を導入しました。2010 年 3 月に参加したアトランタでのアメリカ心臓病学会において、ドイツはライプツィヒからの TAVI のライブデモンストレーションに衝撃を受け、間違いなく日本にも数年内に導入される、愛媛県においては自分達がイニシアチブをとらなければ、という強い思いを抱きました。TCT (アメリカ)、CSI (ドイツ)、TCT AP (韓国)等の海外のライブで情報収集し、並行して新病院にハイブリッド OR (アンギオ装置付きの手術室)を導入しました。また講師を招いての院内ハートチーム(循内、心外、麻酔科、放射線科、カテ室 Ns、Ope 室 Ns、CE、放射線技師、心リハ Ns)の勉強会や国内著名施設での見学を繰り返し、ハートチームによる東京でのトレーニング、院内ドライラン (実際の道具を使った予行)を経て導入にこぎつけました。経大腿、経心

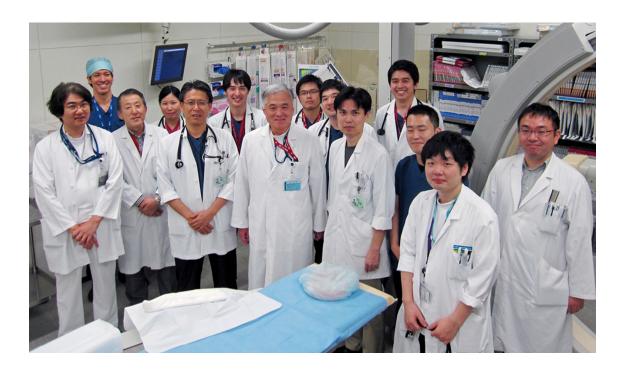
失アプローチともにプロクタリング (国内外の経験豊富な医師の指導下での手技) も終了し完全施設独立を果たしております。とにかく安全第一にと考えておりましたが、2017年8月、症例数が60例を超えた現在、幸い院内死亡ゼロで経過しております。医療が高度化、複雑化するに従って、ハートチームの様な多職種のプロ集団の重要性が増してきていると強く感じます。これまで県外に搬送されていた患者さんの治療を、愛媛県で完結できるようになったことは大きな福音です。AS 患者さんの紹介の増加に影響されてか、最近明らかに入院患者の重症度が上がっています。いつもスタッフには「自分たちが怯んだり腰が引けたような治療をしていたら愛媛の臨床が10年遅れる。その様な自覚を持て。」と鼓舞しながらやっています。これは自分自身をも追い込むことになり、なかなかストレスフルですが・・・。その他、エキシマレーザーを導入し、ペースメーカー感染リードの抜去が県内で可能となりました。これからも引き続き先進医療面での県内完結を目指したいと思います。

2017 年 2 月 1 日からドクターヘリが就航し、機動力が圧倒的に上がりました。旧病院時代は防災ヘリしかなく、ランデブーポイントが松山空港のみでしたが、新病院ではヘリポートが屋上にできたため、県下各地のランデブーポイントから患者さんが直接搬送されてきます。当初外傷が中心と考えていましたが、STEMI等の循環器疾患の搬送も時々あります。例えば、中島で患者さんが発生すると、これまでは高速艇で迎えに行き、港から救急車で当院へというパターンでしたが、現在ドクヘリでわずか8分です。県内外との連携の可能性も含め、2017年は愛媛県の救急医療がドラスティックに変わった年ではないかと思います。

最後に、2017 年 4 月から県立今治病院より松岡宏先生が医局長として着任され、チームが(色々な意味で)パワーアップしました。ご存じの通り血管内視鏡では全国的に有名な先生ですので、心血管イメージングの分野でいろいろご指導頂けるものと考えております。

さて、以上のような3次医療機関の働きに加え、当院は臨床教育病院として研修医・専攻医教育の責務を負っています。地方の医師不足への対策は「教育」しかありません。それもできるだけ早く「独り立ちした循環器内科医」を育成せねばなりません。悠長なことを言っている時間はありません。基幹型研修からのレジデントは救急初期対応や基本的手技など5年目で概ね独り立ちできることを目指しています。何時も言っているように「畳水練」では患者さんを救うことはできません。現在病棟や救急初期対応は循環器専攻医を中心に回っており、彼らが初期研修医を教えています。上級医は suggestionを与えうまく方向修正するのみという形をとっています。 臨床の activity を示すことこそが、愛媛県への愛着を芽生えさせ、多くの研修医に当地での研修を選択してもらうことに繋がり、ひいてはそれが愛媛県の活性化に貢献すると確信しています。

同門の先生方におかれましては多くの患者さんをご紹介頂き、この場を借りて御礼申し上げます。診療情報提供書を拝見するにつけ、同門の先生方の病態の評価、治療のきめ細かさは非常に優れているといつも感心しております。基本ツーカーですので同門同士の病診連携や病病連携は非常にスムーズではないでしょうか。今後も愛媛県の「最後の砦」が破綻しないようにスタッフー同頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



ISH 学会記

谷野 彰子

2016年9月24日から29日まで韓国ソウルで開催された26th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (ISH) 2016に参加させていただきました。

当科からは檜垣實男教授、大藏隆文先生、三好賢一先生、私、谷野彰子が参加しました。また学内留学中の檜垣彰典先生、莖田昌敬先生も参加しておられました。ISH学会会場内では、いよいよ今秋にせまりました、檜垣實男教授主催の第40回日本高血圧学会総会のプロモーションも行いました。

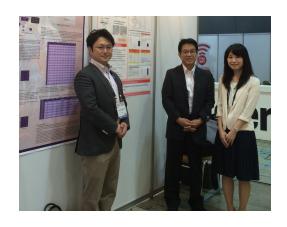
学会場では各国のガイドラインの違い、減塩の取り組み、最新の臨床研究・基礎研究の結果が活発に討論されており、私は原発性アルドステロン症における遺伝子変異の頻度や病型との関連に関する発表に非常に興味を持ちました。また、今後水銀血圧計の規制に向け「水銀時代の終わりに際して」というセッションが設けられていたことに時代を感じました。

学会が終わった夜には、ソウルの街で名物のプル コギ (焼肉)をご馳走になりました。勝手な思い込



みで香辛料を多く使っている韓国は塩分が少ないのかなとこれまで誤解しておりましたが、実は韓国も日本に負けず劣らず塩分摂取量が多い国でした。2012年の韓国の調査では平均塩分摂取量は12.5gとWHO推奨量の約2倍、この塩分のソースは3割がキムチであり、チゲやラーメンからの摂取も多く、日本と同様に韓国でも国を挙げて減塩キャンペーンが行われています。同じ東アジアの国として共に努力していきたいと感じました。

今回の経験を日々の研究、診療に還元できるよう益々研鑽を続けてまいります。最後になりましたが、国際学会で発表する機会を与えて下さいました第二内科の先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。





/ ESC2017 学会記

雄 木 坊 巻

2017年8月26日から30日までスペイン・バルセロナで開催された、European society of cardiology (ESC) 2017に参加させていただきました。

当院からは檜垣實男教授、池田俊太郎先生、井上勝次先生、上谷晃由先生、東晴彦先生と横本祐希が、また市立宇和島病院の河野珠美先生が当院での業績を発表するために参加いたしました。

学会では各領域の最新の知見や、臨床研究・基礎研究の結果が報告され、熱い議論がなされていました。特に私は心不全の治療について興味を持ちセッションを拝聴しましたが、新たな指標、検査方法、リハビリテーションの昨今など学ぶことが多く、実りある時間となりました。

河野珠美先生、東晴彦先生はポスター発表をされました。両先生の発表には多くの聴衆が訪れ、活発に討論されている姿が印象的でした。東晴彦先生はベストポスター賞を受賞されました。

学会の後はたくさん歩いて会食会場に向かいました。8月のバルセロナは20時をすぎても日没を迎えていませんでしたので、道中にサグラダファミリア、カサ・ミラなどガウディ達が残した有名な建造物を見ながら、楽しく散歩気分で歩くことができました。歴史的な建造物が現在の街並みに溶け込んでいる様子、それを大切にするバルセロナの人々の飾らない笑顔と明るい優しさに触れ、素晴らしい街だと感銘を受けました。

初めての国際学会に参加させていただき、改めて循環器領域の幅広さ、興味深さを実感しました。今回の ESC で新しくなったガイドラインを含めて今後も学び続け、臨床業務、学術活動に励もうという気持ちが一層強くなりました。この経験を診療に役立てるよう、日々努力していく所存です。最後になりましたが、国際学会に参加させていただ

く機会を与えてくださりました 第二内科の先生方に深く御礼申 し上げます。ありがとうございま した。



第 40 回日本高血圧学会総会 学会記

愛媛大学大学院 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学

三 好 賢

2017 年 10 月 20 日 (金) ~22 日 (日)、季節外れの超大型台風 21 号が接近する中、愛媛県松山市のひめぎんホール (愛媛県県民文化会館)で第 40 回日本高血圧学会総会が開催されました。本総会のテーマは「未来を創る高血圧学」でした。

特別講演として Brigham and Women's Hospital の Calum A. McRae 先生から「Precision Medicine of CVD and Hypertension」と題した講演がありました。個々人の精密な phenotyping、これに適した創薬、医療の提供の重要性についてお話がありました。また、サッカー日本代表監督の経験がある岡田武史株式会社今治. 夢スポーツ代表取締役会長から「チームマネジメント 今治からの挑戦」と題した講演がありました。岡田



写真1 Hypertension Summit の後で集合写真

氏は特に小さなことこそが勝敗を分けるのだということを強調されました。



写真2 檜垣教授による会長講演

会長特別企画である「Hypertension Summit: 未来を創る高血圧学-高血圧 関連学会理事長からの提言」では日本高血圧学会、日本循環器学会、日本老年学会、日本内分泌学会、日本腎臓学会の各理事長からの講演がありました(写真1)。 さらに、「New Guidelineの展望」ではISH、日本、米国、カナダ、オーストラリア、中国、韓国の正ガイドラインの展望についての講演がありました。国内の各学会、海外のガイドラインについて一度に聞けるお得な企画でした。

檜垣實男会長からは「見果てぬ夢を追って-高血圧の成因解明と新治療法の開発」と 題し、檜垣先生がされてきたレニン・アンジオテンシン系を中心とした研究についての 会長講演がありました(写真 2)。

若手企画 Young Investigator' Promotion では、若手研究者 10 名の演者が競い合い、とても盛り上がっていました(写真 3)。

また、本学会で「日本高血圧学会新禁煙宣言(2017 松山宣言)」が発表されました(写真 4)。会員自らが加熱式たばこを含むあらゆるたばこ製品を使用しないことを徹底し、自らが診療を行う施設の敷地内完全禁煙の達成や患者への積極的な禁煙指導の実践を継続することや、国内外のたばこ会社から助成を受けた研究は、今後の高血圧学会の学術集会、学会誌に採択しないことなどが発表されました。

本学会ではさらに塩育イベントとして「良塩(よしお)君キッズクッキングショー」も行われ、集まった子供達も楽しみながら減塩について学んでいました(写真 5)。未来を担う子供も参加し、本学会のテーマである「未来を創る高血圧学」に沿った企画でした。



写真3 若手企画Young Investigator' Promotion(若手研究者10名が競い合いました)



写真4 日本高血圧学会新禁煙宣言(2017松山宣言) 左端は禁煙啓発キャラクター「すわん君」、右端は減塩啓発キャラクター「良塩(よしお)くん」、良塩くんのお腹のポケットにいるのが「うすあ人」

その他、紙面の都合上記載しきれませんが、高血圧学会の多くの先生方のご尽力により数多くの魅力的な企画が満載でした。また、悪天候にも関わらず本総会にご参加頂いた多くの高血圧学会の皆様に深謝いたします。

閉会式の後、医局員で写真を撮りました (写真6)

来年の第7回臨床高血圧フォーラムは三重大学の伊藤正明教授のもと京都市で、第41回高血圧学会総会は旭川医大の長谷部直幸教授のもとで、旭川市で開催される予定です。盛会となりますように心よりお祈り申し上げます。



写真5 減塩キャンペーン「良塩(よしお)君キッズクッキングショー」



写真6 閉会式後、医局員で集合写真

AHA2017 学会記

附属病院診療科第二内科

川上大志

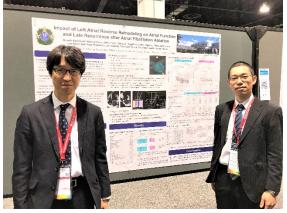
2017年11月、カリフォルニア州アナハイムでAHA2017が開催されました。当科からは大学院生2名(川上:筆者、清家先生)の演題が採択され、指導医と共に参加しました。会場はアナハイム・コンベンションセンターでした。とても巨大な会場に、何千人という循環器スペシャリストが集まりました。何度来ても米国のスケールの大きさには圧倒されてしまいます。





初日、二日目は様子見を兼ねた情報収集と、それぞれ興味がある領域の勉強をしました。3日目が我々の発表日でした。私はポスターセッションでしたが、清家先生はラピットファイヤーセッションというオーラルセッションでした。本番前は普段からは想像できない程緊張されておられました(ぜひ稲葉先生、青野先生に見ていただきたかった)。しかしながら、いざ始まると、流体力学を応用した新しい知見を堂々と発表されました。さすがです!発表後はいつもの清家節が復活して一安心です。私はというと、ポスター前で知り合いの日本人とのんびり談笑していたところにポスター座長の奇襲を受けてあせってしまいましたが、プレゼンテーションは無難にできたように思います。プレゼン後に井上先生からお褒めの言葉をいただけたことがうれしかったです。





私がまだ研修医上がりの3年目時代、はじめての日循で英語口述発表をさせてもらった際の指導医が井上先生でした。原稿はもちろん質疑応答まで全て面倒を見ていただいた若かりし頃が思い出されました。それを思うと、少しは自分の成長を自覚できた瞬間でもありました。

その日の夜は打ち上げです。ステーキハウスで思う存分ステーキとカリフォルニアワインを楽しみました。やっぱりステーキも巨大です!単位がオンスなので、大きさを想像できないままオーダーしてしまいましたが、後で調べたら 450g を越えていました!最年少の私が 35 歳の小食集団でしたが、あまりの美味しさにあっさり食べ尽くしてしまいました。日本と違って赤身がメインですので胃に優しいのかもしれません(私は霜降り苦手です)。旅の良い思い出になりました。





以上が AHA 体験記です。実は私にとって今回がはじめての AHA 参加でした。国際学会の経験はそれなりに重ねてきましたが、AHA だけはこれまで跳ね返され続けていました。ようやくたどり着いた AHA は想像通りのすごい学会でした。しかしながら、一方で、全く歯が立たないという印象は受けませんでした。その点においては、「自分達が日々行っている内容が決して劣っているわけではない」という自信を深める機会になりました。ただし、英語はまだまだであり、現在の自分の最大の課題は英語力の改善であることを痛感させられました。この感覚は実際に参加して肌で感じとるしかないものであり、これが国際学会の一番の醍醐味だと改めて思い直しました。はじめての AHA は実り多い学会になりました。このような貴重な機会をいただき、檜垣教授をはじめ医局の先生方に心より感謝申し上げます。

関連病院業績集



愛媛県立今治病院

英文原著

1. Dai K, Matsuoka H, Kawakami H, Sato T, Watanabe K, Nakama Y, Ishihara M. Comparison of Chronic Angioscopic Findings of Bare Metal Stents, 1st-Generation Drug-Eluting Stents and 2nd-Generation Drug-Eluting Stents - Multicenter Study of Intra-Coronary Angioscopy After Stent (MICASA). Circ J 2016;80:1916-21.

英文症例報告

- 1. Seike F, Kawakami H, Akira Oshita A, Matsuoka H. A recurrent coronary honeycomb-like structure: insights from angioscopy and optical coherence tomography. Coron Artery Dis 2016;27:331-3.
- 2. Miyoshi T, Kawakami H, Oshita A, Matsuoka H. Intraprocedural stent thrombosis detected on coronary angioscopy. Circ J 2016;80:1484-5.
- 3. Miyoshi T, Seike F, Kawakami H, Oshita A, Matsuoka H. A patient with acute coronary syndrome and shock due to occlusion of both native coronaries and bypass grafts who was rescued by revascularization. JC cases 2016:14:149-152.

和文症例報告

- 1. 大西智也、清家史靖、大下 晃、川上秀生、松岡 宏. 女性ホルモン補充療法中に 急性心筋梗塞を発症した 1 例. 愛媛県病誌 2015;49:59-61.
- 2. 川上秀生、三好 徹、大下 晃、松岡 宏、清家史靖. 右浅大腿動脈完全閉塞による重症虚血肢に対して双方向アプローチにて血行再剣術を施行し救肢し得た 1 例. 臨床 今治 2015:27;8-11.
- 3. 大下 晃、川上秀生、清家史靖、三好 徹、松岡 宏. 1年の経過で Acute Coronary Syndrome を発症した 1 例. 臨床今治 2015:27;12-14.
- 4. 鍋屋空大、三好 徹、大下 晃、川上秀生、松岡 宏、仁科智裕. 食道癌に対する放射線療法3年後に生じた放射線性心膜炎の1例. 愛媛県病誌2016:50;57-59.
- 5. 大下 晃、三好 徹、川上秀生、松岡 宏. 膵のう胞性腫瘍のフォローCTで腎萎縮として発見された腎動脈狭窄症の1例. 臨床今治2016;28:31-34.
- 6. 三好 徹、大下 晃、川上秀生、松岡 宏、山本千恵、三好賢一、檜垣實男. 急激 に肺障害と腎障害をきたした顕微鏡的多発血管炎の1例 臨床今治 2016;28:35-40.



愛媛医療センター業績

英文原著論文

1. Fujii A, Inoue K, Nagai T, Uetani T, Nishimura K, Suzuki J, Funada J, Okura T, Higaki J, Ogimoto A. Clinical Significance of Peripheral Endothelial Function for Left Atrial Blood Stagnation in Nonvalvular Atrial. Fibrillation Patients With Low-to-Intermediate Stroke Risk.

Circ J 2016;23;80(10):2117-23.

- 2. Fujii A, Inoue K, Nagai T, Nishimura K, Uetani T, Suzuki J, Funada J, Okura T, Higaki J, Ogimoto A. Clinical Utility of Atrial Electromechanical Conduction Time Measured with Speckle Tracking Echocardiography after Catheter Ablation in Patients with Atrial Fibrillation: A Validation Study with Electroanatomical Mapping. Echocardiography 2016;33(9):1317-25.
- 3. Kawazoe H, Yano A, Ishida Y, Takechi K, Katayama H, Ito R, Yakushijin Y, Moriguchi T, Tanaka M, Tanaka A, Araki H. Non-steroidal anti-inflammatory drugs induce severe hematologic toxicities in lung cancer patients receiving pemetrexed plus carboplatin: A retrospective cohort study. PLoS One 2017:12.

英文症例報告

1. Miyoshi S, Kato T, Katayama H, Ito R, Mizuno Y, Okura T, Higaki J. A case of EGFR mutant lung adenocarcinoma that acquired resistance to EGFR-tyrosine kinase inhibitors with MET amplification and epithelial-to-mesenchymal transition. Onco Targets Ther 2015;8:783-7

和文原著

- 1. 市木 拓、渡邉 彰、植田聖也、佐藤千賀、阿部聖裕肺結核治療開始後の喀痰塗抹連続陰性化と培養陰性化の関連. IRYO 2015;69:511-516.
- 2. 片山 均、伊東亮治、山本千恵、濱田千鶴、豊澤亮、加藤亜希、三好誠吾、大藏隆文、檜垣實男. 携帯情報端末用禁煙支援アプリ使用者に対する COPD 認知に関するオンライン調査. 日呼吸誌 2015;4(3):216-222.
- 3. 渡邉彰、阿部聖裕. 特集:呼吸器感染症の最新動向-肺結核治療の動向医学と薬学 2015;72:847-857.



愛媛県立中央病院

英文症例報告

- 1. Takahashi T, Okayama H, Hiasa G, Kazatani Y, Sasaki H. Giant left ventricular pseudoaneurysm: A rare complication of surgical patch repair for left ventricular free wall rupture. EHJ Cardiovascular Imaging 2016;17(2):176.
- 2. Miyoshi T, Okayama H, Hiasa G, Kawata Y, Yamada T, Kazatani Y. Contrast-enhanced ultrasound for the evaluation of acute renal infarction. J Med Ultrason 2016;43(1):141-143.
- 3. Kono T, Ogimoto A, Iio C, Fujimoto K, Fujii A, Hiasa G, Okayama H, Miyagawa M, Mochizuki T, Izutani H, Higaki J. Aortic prosthetic graft infection detected by (18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography. Int J Cardiol 2016;203(1):972-974.
- 4. Takahashi T, Okayama H, Hiasa G, Kazatani Y. Two cases of cardiac sarcoidosis diagnosed based on biopsy results of the gluteus muscle with focal uptake of 18F-fluorodeoxyglucose. Eur Heart J 2016;37(14):1168.
- 5. Takahashi T, Okayama H, Matsuda K, Yamamoto T, Hosokawa S, Kosaki T, Kawamura G, Shigematsu T, Kinoshita M, Kawada Y, Hiasa G, Yamada T, Kazatani Y. Optical coherence tomography-based diagnosis in a patient with ST-elevation myocardial infarction and no obstructive coronary arteries. Int J Cardiol 2016;223(1):146-148.

和文症例報告

1. 原佳世、岡山英樹、日浅豪、重松達哉、細川沙生、高橋龍徳、木下将城、三好徹、川田好高、山田忠克、風谷幸男、中澤学. Sirolimus eluting stent, everolimus eluting stent 留置後に病理学的検討を施行し得た 1 例. 心臓 2016;48(3):305-311.

和文著書

- 1. 岡山英樹. 【特集 再灌流療法の戦略とテクニック】 PIT は生きている. Coronary Intervention 2016;12:22-27.
- 2. 風谷幸男. 【循環器専門医活動と現況】愛媛県立中央病院. 日本循環器学会専門医誌 循環器専門医. 2016;24:366-370.



喜多医師会病院

英文原著論文

- 1. Morofuji T, Inaba S, Hitsumoto T, Takahashi K, Aisu H, Higashi H, Saito M, Ohshima K, Ikeda S, Hamada M, Sumimoto T. Usefulness of Intravascular Ultrasound for Predicting Risk of Intraprocedural Stent Thrombosis. Am J Cardiol 2016;117:918-25.
- 2. Takahashi K, Saito M, Inaba S, Morofuji T, Aisu H, Sumimoto T, Ogimoto A, Ikeda S, Higaki J. Contribution of the long-term care insurance certificate for predicting 1-year all-cause readmission compared with validated risk scores in elderly patients with heart failure. Open Heart 2016;3:e000501.

英文症例報告

- 1. Aono J, Kikuchi K, Higashi H, Saito M, Sumimoto T. Epigastric and chest pain in celiac artery dissection: spontaneous isolated dissection of the celiac trunk. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2016;17:315, 2016.
- 2. Higashi H, Inaba S, Izutani H, Sumimoto T. An unusual cause of life-threatening right-sided heart failure: undifferentiated pleomorphic sarcoma in the right ventricular outflow tract. Eur Heart J 2016;37:1002.
- 3. Takahashi K, Inaba S, Kikuchi K, Aisu H, Morofuji T, Saito M, Sumimoto T. Intravascular Ultrasound-Diagnosed Acute Aortic Dissection Involving Left Main Closure. J Am Coll Cardiol Interv 2016;9:1631-2.
- 4. Higashi H, Inaba S, Azuma T, Sumimoto T. Effects of Steroid Therapy for IgG4-related Coronary periarteritis. Intern Med. 2016;55:1935-6.



▋ 済生会松山病院

英文原著論文

Kido T, Kido T, Nakamura M, Watanabe K, Schmidt M, Forman C, Mochizuki T. Assessment of left ventricular function and mass on free-breathing compressed sensing real-time cine imaging.

Circ J 2017;81:1463-8.

Kurata A, Coenen A, Lubbers MM, Nieman K, Kido T, Kido T, Yamashita N, Watanabe K, Krestin GP, Mochizuki T.

The effect of blood pressure on non-invasive fractional flow reserve derived from coronary computed tomography angiography.

Eur Radiol 2017;27:1416-3.

Kido T, Kido T, Nakamura M, Watanabe K, Schmidt M, Forman C, Mochizuki T. Compressed sensing real-time cine cardiovascular magnetic resonance: accurate assessment of left ventricular function in a single-breath-hold. J Cardiovasc Magn Reson 2016;18:50.

市立宇和島病院

2016年

英文原著論文

1. Hamada M, Shigematsu Y, Takezaki M, Ikeda S, Ogimoto A. Plasma levels of atrial and brain natriuretic peptides in apparently healthy subjects: Effects of sex, age, and hemoglobin concentration. Int J Cardiol 2016.

- 2. Hamada M, Ikeda S, Ohshima K, Nakamura M, Kubota N, Ogimoto A, Shigematsu Y. Impact of chronic use of cibenzoline on left ventricular pressure gradient and left ventricular remodeling in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. J Cardiol 2016;67:279-86.
- 3. Morofuji T, Inaba S, Hitsumoto T, Takahashi K, Aisu H, Higashi H, Saito M, Ohshima K, Ikeda S, Hamada M, Sumimoto T.

Usefulness of Intravascular Ultrasound for Predicting Risk of Intraprocedural Stent Thrombosis.

Am J Cardiol 2016; 117: 918-25.

4. Takahashi K, Saito M, Inaba S, Morofuji T, Aisu H, Sumimoto T, Ogimoto A, Ikeda S, Higaki J.

Contribution of the long-term care insurance certificate for predicting 1-year all-cause readmission compared with validated risk scores in elderly patients with heart failure.

Open Heart 2016; 3: e000501.

- 5. Tanabe Y, Kido T, Uetani T, Kurata A, Kono T, Ogimoto A, Miyagawa M, Soma T, Murase K, Iwaki H, Mochizuki T. Differentiation of myocardial ischemia and infarction assessed by dynamic computed tomography perfusion imaging and comparison with cardiac magnetic resonance and single-photon emission computed tomography. Eur Radiol 2016.
- 6. Fujii A, Inoue K, Nagai T, Nishimura K, Uetani T, Suzuki J, Funada J, Okura T, Higaki J, Ogimoto A. Clinical Utility of Atrial Electromechanical Conduction Time Measured with Speckle Tracking Echocardiography after Catheter Ablation in Patients with Atrial Fibrillation: A Validation Study with Electroanatomical Mapping. Echocardiography 2016; 33: 1317-25.

7. Seike F, Uetani T, Nishimura K, Iio C, Kawakami H, Fujimoto K, Higashi H, Kono T, Aono J, Nagai T, Inoue K, Suzuki J, Ogimoto A, Okura T, Yasuda K, Higaki J, Ikeda S.

Correlation Between Quantitative Angiography-Derived Translesional Pressure and Fractional Flow Reserve.

Am J Cardiol 2016;118:1158-63.

8. Fujii A, Inoue K, Nagai T, Uetani T, Nishimura K, Suzuki J, Funada J, Okura T, Higaki J, Ogimoto A. Clinical Significance of Peripheral Endothelial Function for Left Atrial Blood Stagnation in Nonvalvular Atrial Fibrillation Patients With Low-to-Intermediate Stroke Risk.

Circ J 2016;80:2117-23.

英文症例報告

1. Hamada M, Takamura Y, Otani T, Ohshima K, Ogimoto A, Ikeda S, Horii T. Left ventricular noncompaction mimicking hypertrophic obstructive cardiomyopathy.

Int J Cardiol 2016;220:825-7.

2. Hamada M, Ohshima K, Asai M, Shimizu Y, Ogimoto A.

Impact of atrial pacing on cardiogenic shock due to the deterioration of tricuspid regurgitation.

Int J Cardiol 2016;223:422-4.

3. Otani T, Matsumoto Y, Inoue K, Tanaka H, Hamada M.

Morphological characterization of coronary arteries in immunoglobulin G4-related disease estimated by using computed tomography and magnetic resonance imaging. Int J Cardiol 2016;215:111-3.

4. Kawakami H, Nagai T, Fujii A, Uetani T, Nishimura K, Inoue K, Suzuki J, Oka Y, Okura T, Higaki J, Ogimoto A, Ikeda S.

Apnea-hypopnea index as a predictor of atrial fibrillation recurrence following initial pulmonary vein isolation: usefulness of type-3 portable monitor for sleep-disordered breathing.

J Interv Card Electrophysiol 2016;47:237-44.

和文症例報告

1. 井上祐馬、岩村卓明、竹口崇、福井聡、清水秀晃、大島清孝、大木元明義. 冠動脈 CT angiography で発見された冠動脈動静脈瘻の3例. 南予医学雑誌 2016; 17: 78-84.

著書・その他

1. 大木元明義:心内膜・心筋・心膜疾患.

Year Note 2017 26th edition、Medic Media、東京、2016年3月出版:C-141-156.

2. 大木元明義: 医師会健康講座「医者がすすめても飲んではいけない薬?」広報うわじま 2016 年 10 月号

2015年

英文原著論文

1. Aono J, Ikeda S, Katsumata Y, Higashi H, Ohshima K, Ishibashi K, Matsuoka H, Watanabe K, Hamada M.

Correlation between plaque vulnerability of aorta and coronary artery: an evaluation of plaque activity by direct visualization with angioscopy. Int J Cardiovasc Imaging 2015;31:1107-14.

2. Hamada M, Shigematsu Y, Ohtani T, Ikeda S.

Elevated Cardiac Enzymes in Hypertrophic Cardiomyopathy Patients With Heart Failure. A 20-Year Prospective Follow-up Study.

Circ J 2015; 80: 218-26.

英文症例報告

1. Ochiumi Y, Ikeda S, Hamada M.

Reappearance of the left ventricular pressure gradient in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy.

Intern Med 2015; 54: 805-6.

2. Nakamura M, Ikeda S, Nagahara H, Hitsumoto T, Matsui S, Kadota H, Shimizu H, Ohshima K, Yakushiji N, Hamada M.

A Patient with Dengue Fever Presenting with Rhabdomyolysis.

Intern Med 2015; 54: 1657-60.

3. Hitsumoto T, Ikeda S, Matsukage S, Hamada M. Extensive myocardial calcinosis due to Mycobacterium tuberculosis. Eur Heart J 2015.

4. Matsui S, Ikeda S, Aono J, Hamada M. Different Vascular Reactions after "Hybrid Stenting". Intern Med 2015; 54: 3249-50.

☑ 松山赤十字病院

英文総説

1. Kazuo Murakami.

Can hypertension and related cardiovascular diseases be caused by Dark-Matter-like RNAs? Atlas of Science 2016.

2. Kazuo Murakami.

(Pro) renin Receptor and Oxidative Stress - Friend or Foe? Austin Journal of Nephrology and Hypertension 3(1): 1056, 2016.

3. Kazuo Murakami.

Control of Renin-Angiotensin-Aldosterone System by Oxidative Stress in Renal Diseases - Feedback and Feed forward Mechanism.

Remedy Open Access Journal-Nephrology 1 (Article 1006): 1-6, 2016.

英文症例報告

1. Mayu Minamoto, Tomikazu Fukuoka, Hironobu Umakoshi, Kazuo Murakami. Small Pheochromocytoma in an Elderly Woman with Hypertension Annals of Clinical Case Reports 1(Article 1038): 1-3, 2016.

■ 大阪国際がんセンター

英文原著論文

1. Kamada Y, Miyoshi E, Miyamoto Y. Elevation of CA19-9-related novel marker, core 1 sialyl lewis A, in sera of adenocardinoma patients verified by a SRM-based method. J Proteome Res 2016;15:152-65.

和文原著論文

1. 向井幹夫、塩山 渉、黒田 忠、岡 亨. 担がん患者における抗凝固療法-シングルドラッグアプローチの検討. Prog. Med 2016;36:129-141.

和文著書

1. 左近賢人、向井幹夫. 静脈血栓塞栓症 (VTE) 1. 一次予防 (病態と治療) ②腹部外科領域 ファーマナビゲーター 抗凝固療法編 編集者 山下武志、是恒之宏、矢坂正弘、株式会社メディカルビュー社 2015;228-237.

和文総説

- 1. 向井幹夫. 癌に合併する静脈血栓症の管理 血液フロンティア 静脈血栓症 2016 [^] 我が国の最新の情報から [^] 血液フロンティア 2016;26:375-381.
- 2. 向井幹夫. がん患者の静脈血栓塞栓症。心血管薬物療法 2016;4:3-7.
- 3. 向井幹夫. -Onco-Cardiology- 腫瘍循環器学とは KOFUN 2016.
- 4. 赤澤 宏、畠 清彦、向井幹夫、南 学. Onco-Cardiology の現状と今後の展開 Cardiac Practice 2016;27:135-143.
- 5. 向井幹夫. 併存症のある心房細動症例—この患者の抗凝固療法をどうするか?!担 癌患者 薬局 2016;67:2391-2396.
- 6. 向井幹夫. 中毒性心筋症. 呼吸と循環 2016;64:697-704.
- 7. 向井幹夫. Onco-Cardiology がんと循環器における新しい関係 序文(監修). 呼吸

と循環 2016;64:839-840.

- 8. 向井幹夫. 循環器合併症をもつ患者のがん治療-Onco-Caridology 腫瘍循環器学-癌と化学療法. 2016;43:940-944.
- 9. 向井幹夫. がんと VTE (静脈血栓塞栓): VTE の最新情報. Xa-Nexia 2016;5: 12-13.
- 10. 向井幹夫.がんと循環器の新しい関係 Onco-Cardiology。Osaka Heart Club 2016;40:1-2.
- 11. 左近賢人、向井幹夫. 静脈血栓塞栓症 (VTE) 1. 一次予防 (病態と治療) ②腹部外科領域 ファーマナビゲーター 抗凝固療法編 編集者 山下武志、是恒之宏、矢坂正弘、株式会社メディカルビュー社. 2015;228-237.
- 12. 左近 賢人、向井幹夫、池田正孝. 術後 (整形外科・外科朗域) 血栓症予防における抗凝固療法のEBM. Thrombosis and Circulation 2015;23:57-62.
- 13. 向井幹夫. 抗癌剤治療による心筋障害の治療. Heart View 2015;19:92-97.
- 14. 向井幹夫. 癌患者における抗血栓療法. Medicina メディチーナ 2015;52;2394-2399.
- 15. 向井幹夫. 腫瘍循環器外来とは- Onco-cardiology-. 成人病 2015;2957-9.

和文症例報告

1. 塩山 渉、黒田 忠、岡 亨、向井幹夫. 膵癌治療中に難治性の深部静脈血栓症を合併した 1 例. Osaka Heart Club 2016;40:6-10.

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

英文原著論文

- 1. Mie Hayashida, Masanori Yasuo, Masayuki Hanaoka, Kuniaki Seyama, Yoshikazu Inoue, Koichiro Tatsumi, Michiaki Mishima, the Respiratory Failure Research Group of the Ministry of Health, Labour, and Welfare, Japan. Reductions in pulmonary function detected in patients with lymphangioleiomyomatosis: An anyalysis of the Japanese National Research Project on Intractable Diseases database. Respiratory Investigation 2016;54(3):193-200.
- 2. Campo I, Luisetti M, Griese M, Trapnell BC, Bonella F, Grutters JC, Nakata K, Van Moorse CH, Costabel U, Cottin V, Ichiwata T, Inoue Y, Braschi A, Bonizzoni G, Lotti GA, Tinelli C, Rodi G. A Global Survey on Whole Lung Lavage in Pulmonary Alveolar Proteinosis. 2016; Chest 150(1):251-253.
- 3. Tsutomu Hamada, Takuya Samukawa, Tomohiro Kumamoto, Kazuhito Hatanaka, Go

Tsukuya, Masuki Yamamoto, Kentaro Machida, Masaki Watanabe, Keiko Mizuno, Ikkou Higashimoto, Yoshikazu Inoue, Hiromasa Inoue. Erratum to: Serum B cell-activating factor (BAFF) level in connective tissue disease associated interstitial lung disease. BMC Pulmonary Medicine 2016;16(1):117.

- 4. Ilaria Campo, Maurizio Luisetti, Matthias Griese, Bruce C. Trapnell, Francesco Bonella, Jan Grutters, Koh Nakata, Coline H. M. Van Moorsel, Ulrich Costabel, Vincent Cottin, Toshio Ichiwata, Yoshikazu Inoue, Antonio Braschi, Giacomo Bonizzoni, Giorgio A. Iotti, Carmine Tinelli, Giuseppe Rodi and for the WLL International Study Group. Whole lung lavage therapy for pulmonary alveolar proteinosis: a global survey of current practices and procedures. Orphanet Journal of Rare Diseases 2-16;11(1):115.
- 5. Masanori Akira, Yoshikazu Inoue, Toru Arai, Chikatoshi Sugimoto, Sayoko Tokura, Koh Nakata, Masanori Kitaichi, for the Osaka Respiratory Diseases Symposia Group. Pulmonary Fibrosis on High-Resolution CT of Patients With Pulmonary Alveolar Proteinosis. American Journal of Roentgenology 2016;207(3):544-551.
- 6. McCormack FX, Gupta N, Finlay GR, Young LR, Taveira-DaSilva AM, Glasgow CG, Steagall WK, Johnson SR, Sahn SA, Ryu JH, Strange C, Seyama K, Sullivan EJ, Kotloff RM, Downey GP, Chapman JT, Han MK, D'Armiento JM, Inoue Y, Henske EP, Bissler JJ, Colby TV, Kinder BW, Wikenheiser-Brokamp KA, Brown KK, Cordier JF, Meyer C, Cottin V, Brozek JL, Smith K, Wilson KC, Moss J; ATS/JRS Committee on Lymphangioleiomyomatosis. Official American Thoracic Society/Japanese Respiratory Society Clinical Practice Guidelines: Lymphangioleiomyomatosis Diagnosis and Management. Am J Respir Crit Care Med 2016;194(6):748-61.
- 7. Yasuo Kohashi, Toru Arai, Chikatoshi Sugimoto, Kazunobu Tachibana, Masanori Akira, Masanori Kitaichi, Seiji Hayashi, Yoshikazu Inoue. Clinical Impact Emphysema Evaluated by High-Resolution Computed Tomography on Idiopathic Pulmonary Fibrosis Diagnosed by Surgical Lung Biopsy. Respiration 2016;92(4):220-228.
- 8. Toshinori Takada, Ayako Mikami, Nobutaka Kitamura, Kuniaki Seyama, Yoshikazu Inoue, Katsura Nagai, Masaru Suzuki, Hiroshi Moriyama, Keiichi Akasaka, Ryushi Tazawa, Toyohiro Hirai, Michiaki Mishima, Mie Hayashida, Masaki Hirose, Chikatoshi Sugimoto, Toru Arai, Noboru Hattori, Kentaro Watanabe, Tsutomu Tamada, Hirohisa Yoshizawa, Kohei Akazawa, Takahiro Tanaka, Keita Yogi, Lisa R. Yong, Francis X. FX McCormack, Koh Nakata. Efficacy and Safety of Long-Term Sirolimus Therapy for Asian Patients with Lymphangioleiomyomatosis. Annals of the American Thoracic Society 2016;13(11):1912-1922.
- 9. Arai T, kagawa T, sasaki Y, Sugawara R, Sugimoto C, Tachibana K, Kitaichi M, Akira M, Hayashi S, Inoue Y. Heterogeneity of incidence and outcome of acute exacerbation in idiopathic interstitial pneumonia. Respirology

2016;21(8):1431-1437.

- 10. Taniguchi H, Xu Z, Azuma A, Inoue Y, Li H, Fujimoto T, Bailes Z, Schlenker-Herceg R, Kim DS. Subgroup analysis of Asian patients in the INPULSIS® trials of nintedanib in idiopathic pulmonary fibrosis. Respirology 2016;21(8):1425-1430.
- 11. Toru Arai, Tomoko Kagawa, Yumiko Sasaki, Reiko Sugawara, Chikatoshi Sugimoto, Kazunobu Tachibana, Masanori Kitaichi, Masanori Akira, Seiji Hayashi, Yoshikazu Inoue. Heterogenity of incidence and outcome of acute exacerbation in idipathic interstitial pneumonia. Respirology 2016;21(8):1431-1437.
- 12. Nuñez O, Román A, Johnson SR, Inoue Y, Hirose M, Casanova Á, de Garibay GR, Herranz C, Bueno-Moreno G, Boni J, Mateo F, Petit A, Climent F, Soler T, Vidal A, Sánchez-Mut JV, Esteller M, López JI, García N, Gumà A, Ortega R, Plà MJ, Campos M, Ansótegui E, Molina-Molina M, Valenzuela C, Ussetti P, Laporta R, Ancochea J, Xaubet A, Pollán M, Pujana MA. Study of breast cancer incidence in patients of lymphangioleiomyomatosis. Breast Cancer Res Treat. 2016;156(1):195-201.
- 13. Ando K, Okada Y, Akiba M, Kondo T, Kawamura T, Okumura M, Chen F, Date H, Shiraishi T, Iwasaki A, Yamasaki N, Nagayasu T, Chida M, Inoue Y, Hirai T, Seyama K, Mishima M; Respiratory Failure Research Group of the Japanese Ministry of Health, Labour, and Welfare. Lung Transplantation for Lymphangioleiomyomatosis in Japan. PLoS One 2016;11(1):e0146749.

日本語論文

- 1. 井上義一. 分類不能型特発性間質性肺炎:分類不能型間質性肺疾患を含めその意義と問題点. Respiratory Medicine 呼吸器内科 2016;30(2):157-160.
- 2. 井上義一. IPF(特発性肺線維症)ってどんな病気だろう. 日本ベーリンガーIPF 冊子 2016;1-12.
- 3. 井上義一. 解説 比較的稀な肺疾患 肺胞蛋白症. Respiratory Medical Research 2016;4(2):59-63.
- 4. 井上義一. 特発性肺線維症に期待される新規治療薬. THE LUNG perspectives 2016;24(2):31-37.
- 5. 徳田均, 宮崎泰成, 井上義一. 専門医でも見逃す鳥関連過敏性肺炎. 日経メディカル 2016;45(11):21-24.
- 6. 井上義一. わが国における肺胞蛋白症の現状 難病対策、患者支援を含めて. 日本 胸部臨床 2016;75:1217-1225.
- 7. 吾妻安良太,井上義一,小倉髙志,谷口博之. IPF(特発性肺線維症)診断の実際. IPF(特発性肺線維症)診断の実際 抗線維化薬導入の副作用マネジメントと患者説明に

ついて 2016.

- 8. 井上義一. 特発性肺線維症 (IPF) 患者に対するニンテダニブの長期投与: INPULSIS-ON 試験の最新解析. ERS International Congress 2016 4-5.
- 9. 井上義一. 英国胸部疾患学会特発性肺線維症登録研究(BTS IPF Registry の初回解析. ERS International Congress 2016;10.
- 10. 井上義一. 分類不能型特発性間質性肺炎. 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き改訂第3版 2016;109-110.

日和田賞受賞の言葉 愛媛県立今治病院循環器内科 三好 徹

この度は、第14回愛媛呼吸循環器病医学研究奨励賞(日和田賞)を頂き、誠にありがとうございました。このような賞をいただくのは光栄であり、今後の励みになります。「血管内視鏡による第二世代薬剤溶出性ステント留置慢性期の新規動脈硬化発生に関する検討」と題して今回発表させていただきました。PCI に薬剤溶出性ステントが使用されるようになり、ステント内再狭窄は激減しましたが、一方で neoatherosclerosis という新たな問題が浮上してまいりました。しかも第一世代薬剤溶出性ステントだけでなく、第二世代薬剤溶出性ステントにも同様の事象が惹起されることがわかっております。今回、イメージングモダリティとして血管内視鏡を用い検討を行い、第二世代薬剤

溶出性ステントを留置した患者群で、ステント留置直後と慢性期冠動脈造影時で neoatherosclerosis をおこした群とおこさなかった群とで後ろ向きに評価いたしました。結果、LDL-コレステロールを 70mg/dL 以下にすると neoatherosclerosis を起こしにくいという結論を導き出しました。

今回このような賞をいただけたのは、いつも熱心に指導してくださる松岡宏先生、川上秀生先生をはじめとした多くの先生方のおかげだと思っております。血管内視鏡検査はたしかに限られた施設でしか行われていない手技ではありますが、実際に冠動脈内、ステント留置部位を直に観察するので非常に有益な情報が得られるデバイスです。今後、BVS(溶けるステント)などさらにカテーテル治療の分野では新たな話題が目白押しであり、引き続き、当院から新しい話題を発信していきたいと思っております。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新入局員 Drs!

「自己紹介文]

関 谷 健 佑

平成27年度愛媛大学第2内科へ入局させて頂きました関谷健佑と申します。 この場をお借りして入局の御挨拶をさせて頂きます。

私は大学卒業後、済生会松山病院で初期研修および後期研修を終了し、その後松山赤十字病院、愛媛大学病院、本年度は西条中央病院で勤務しております。各病院では第2内科の先生方に熱心な御指導頂き、大変感謝している次第です。

専門は循環器内科ですが、内科全般に対応できる医師を目指しております。また近年は 予防医学にも興味を持っており、愛媛県地域医療に貢献できるよう努力する次第です。 今後とも御指導御鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

井 関 洋 成

平成28年度より第二内科でお世話になっております、井関洋成です。

愛媛県野村町出身で中高は愛光学園に進学し松山市で過ごしました。大学は帝京大学 医学部に1年浪人の後に進学し、以降研修医2年目までの8年間を東京で過ごしました。 3年目から愛媛県で働くことを決意し、東京から帰京する際はさすがに辛い気持ちも ありましたが、地域に貢献したという気持ちと、第二内科の先輩方の優しく温かいご指 導のお陰で昨年度は日々充実した生活を過ごさせていただきました。

今年度からは愛媛県立中央病院で働かせていただいております。場所も変われば、1つ1つの事柄が全て異なり、日々困惑しておりますが、第二内科の名に恥じぬよう日々精進してまいりたいと思います。

人見知りなところが強く、何かと御迷惑をおかけすることもあると思われますが、今後とも御指導御鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

渡 部 勇 太

平成28年度より第二内科の末席に加わりました渡部勇太です.松山市出身で荏原小学校、愛媛大学付属中学校、松山東高校の後に高松高等予備校をはさみまして、平成20年度に愛媛大学医学部に入学しました.初期研修は松山市民病院で2年間を過ごさせていただき、昨年度第二内科に入局させていただきました.

市中病院での初期研修ではありましたが1ヶ月間,愛媛大学第二内科で研修させていただきました.同研修をきっかけに循環器内科の魅力に気づき,入局を決意いたしました.昨年度は大学病院で指導医である東晴彦先生のもと,修行をさせていただきました.本年度からは市立宇和島病院で勤務させていただいております.大木元明義先生のもと,充実した毎日を過ごしております.今後ともご指導いただきました諸先生方からの助言を活かして,日々の診療に邁進していきます.

これからも第二内科の一員として精励して参る所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

七條聖

昨年度(2016年)より第二内科の末席に加わりました、七條聖です。生まれと育ちは長崎、その後広島大学に入学、8年間を広島県で過ごしました。九州、中国、そしてこの度四国の愛媛県にやってきました。人生なにが起こるかわかりません。

大学卒業後、2年間広島赤十字・原爆病院での初期研修を経て、愛媛大学第二内科に入局致しました。大蔵先生、三好先生、長尾先生を始めとしたとても頼りになる先生方のもと、腎・高血圧グループで1年間勉強させていただき、現在は松山赤十字病院に行かせていただいております。

苦手なことは人と話すこと、人の名前を覚えること、人前での発表、という三重苦を抱える先行き不安な私ですが、慣れない愛媛県での暮らし、何も分からずへこみがちな稚い時期を乗り越えられたのは、指導医の先生方を始め、第二内科の皆様の暖かく時に厳しい指導、また、研究会などでお会いしたときに励ましてくださった同門の諸先生方のお陰であります。

日赤で一回り大きくなったな、と思っていただけるよう、第二内科の一員として日々成長、精励して参る所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

中村行宏

本年度より愛媛大学医学部第2内科呼吸器グループで勤務させて頂いております中村行宏と申します。この場を借りて、入局の御挨拶をさせて頂きます。

私は松山の生まれではございますが、大学は香川大学に進学し、卒業後の初期研修から愛媛に戻り愛媛大学病院の研修プログラムを選ばせて頂きました。当時、右も左も分からない時期に一番初めに研修をさせて頂いたのが第2内科でした。第2内科の先生方には優しく熱心に、かつ根気強く御指導、御勧誘を頂きまして大変お世話になりました。あの時の御指導があってこその今の自分があり、感謝してもしきれないほどです。初期研修の後はその様な思い出があった事、医学的な興味として疾患があらゆる領域にわたる事や未解明な部分が多い事などから呼吸器内科を専攻とさせて頂きました。

2年間は国立病院機構愛媛医療センター呼吸器内科専修医として肺炎、結核、間質性肺炎などを中心に研修を行った後、今年卒後5年目となり、愛媛大学医学部第2内科呼吸器グループの一員として帰らせて頂いた次第です。

愛媛大学病院での診療は以前の勤務先で診ていた疾患とは全く異なった疾患を持つ 患者様ばかりであり、把握しきれていない一方で、大変興味深く楽しく診療に当たらせ て頂いております。まだまだ未熟者ではございますが、諸先輩方の御迷惑とならないよ うに日々精進していく覚悟です。何卒、御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上 げます。

牧田愛祐

本年度より第二内科の末席に加わりました、専攻医4年目の牧田愛祐と申します。 京都府で生まれ、幼少期から高校時代までは大阪で過ごしました。神戸大学医学部に 入学し、その後は初期研修を含めて3年間、兵庫県明石市の市中病院で研修を致しまし た。3年目になる時点ではまだ専攻科を決めきれず、3年目も引き続き内科系全般をロ ーテートし、腎臓内科の道へ進むことを決意しました。

この度ご縁があり、愛媛県へと移り住み、第二内科へ入局させていただくことになりました。昨年の夏と冬にご挨拶に伺った際に、愛媛県はとても住みやすいところだと色んな先生方からお聞きしておりましたが、実際に住み始めてみるとまさにその通りで、お陰様でホームシックになることもなく過ごしております。腎高血圧グループの先生方はもちろん、循環器・呼吸器グループの先生方もあたたかく迎えて下さり、恵まれた環境に来させていただいたと実感しております。

趣味と言えるほどのものはありませんが、美味しいものを頂いたり、自然に触れることが好きです。愛媛県に関しても、まだまだ知らないことがたくさんありますので是非色んなことを教えていただければと思っております。

今年から腎高血圧を専攻するため、初心であり至らない点も多々あるかと存じます。 来年の同窓会では、成長したというお言葉を頂けるように日々精進して参りますので、 ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

横本祐希

今年度第二内科に入局致しました、横本 祐希と申します。松山東高校、愛媛大学を卒業し、卒後3年目で循環器グループに入れていただきました。臨床研修のスタートを切ったのがこの愛媛大学第二内科で、カルテの書き方に始まり、診療の仕方、患者様との関わり方、また論文検索や学会発表まで熱心にご指導いただきました。そこで第二内科の素晴らしさ、循環器疾患の興味深さに心惹かれ、循環器内科医としての一歩を踏み出すことになりました。至らない点が多く、たくさんのご迷惑をおかけしていますが、先生方の熱血指導を賜りながら日々楽しく働いております。一人ひとりの患者様を大切にして、様々な点に興味を持って勉強しながら早く一人前になれるよう、日々精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



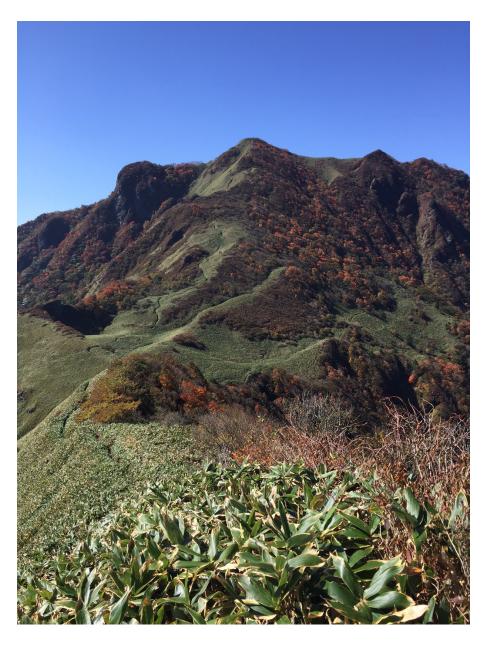






この度、同窓会ニュース No. 45 の発刊にあたり、お忙しい診療の中巻頭言を執筆いただ きました愛媛県立中央病院岡山英樹先生をはじめ、記事を執筆いただいた先生方、本当 に有難うございました。本年度は第二内科を先導いただきました檜垣實男教授がご退官 の日を迎えられます。私たちのチャレンジを長年見守っていただいた檜垣教授に心より 感謝申し上げます。

編集委員 井上勝次、三好賢一、川上秀生、渡辺浩毅



秋風香る伊予富士